

内海倫先生の「座右の銘」を紹介した某誌で拝読した記事に一休和尚の遺言にまつわるエピソードがあった。和尚が臨終の際「仏教が滅びるか大徳寺が潰れるかの一大事が生じたら、この箱を開けなさい」と一つの箱を弟子に遺した。長い年月がたち、その大徳寺の存続にかかる重大な問題が起る。思案に暮れた時、亡き一休和尚の遺言を思い出して、寺僧全員が集まつて厳かに箱を開けると、中には一枚の紙。「なるようにならぬやうにしかならないさ」という自棄である。大徳寺の存続にかかる重大な問題が起き、思案に暮れた時、亡き一休和尚の遺言を思い出して、寺僧全員が集まつて厳かに箱を開けると、「なるようにならぬやうにしかならないさ」という自棄である。

（レキオファーマ社長）



一休和尚の遺言 —奥 キヌ子—

内海倫先生の「座右の銘」を紹介した某誌で拝読した記事に一休和尚の遺言にまつわるエピソードがあった。和尚が臨終の際「仏教が滅びるか大徳寺が潰れるかの一大事が生じたら、この箱を開けなさい」と一つの箱を弟子に遺した。

余白の仕事

昔は、子育てに苦労する親や、事業がうまく行かずに悩むなど、人生の難関に立ち向かっている者たちに、周りの長老たちが、慰めとも激励とも後押しとも言える温かさで、諭したものだ。

新発見であった。

「琉球新報」提供